



TITLE:

## 1.概要(III 共同利用研究)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

1.概要(III 共同利用研究). 霊長類研究所年報 1974, 3: 22-23

ISSUE DATE:

1974-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162532>

RIGHT:

# Ⅲ 共同利用研究

## 1. 概要

昭和47年度共同研究については、前年度に改定施行された「京都大学霊長類研究所運営委員会規程」にもとづく運営委員会（年報 Vol. 2, 22頁を参照）により公募方針の検討、申請の採否などの重要事項が議された。共同研究の実行推進に当って所内全体の対応、協力があつたことは言うまでもない（なお、付記を参照）。

公募は「Ⅰ. 研究課題」と「Ⅱ. 研究会課題」とに大別して行なわれ、前者については、次のような設定課題（1～4は前年度に準じている）を設けるとともに、自由課題による申請も行なえる形をとった。

### 1. ニホンザル地域個体群の研究

ニホンザルの群れ社会の存在様式をひろく追求することを目的としているが、とくに地域社会構造、個体群動態分布、あるいは環境と適応に関する諸問題の研究に重点がおかれる。また、集団遺伝学的あるいは形態的な変異からのアプローチ、生物経済学的側面の研究など多方面からの探究が望まれる。調査の対象となる群れおよび地域についてはとくに限定を加えない。

### 2. 生活様式ならびに身性特徴との関連における霊長類のロコモーションに関する研究

霊長類の各系統群間にみられるロコモーションの違いを、それぞれがもつ生活様式ならびに身性上の(physical)特徴との関連のもとに研究し、霊長類進化におけるさまざまな適応放散の過程、ひいては直立二足歩行の獲得を中心として成立してきたヒト化の解明に資することを目的とする。

### 3. 霊長類の生理的適応

霊長類の生理・生化学的進化、ならびに分布・行動・生活様式の生理的基盤に関する研究の一環として、温度にたいする適応の問題をおもにとりあげる。異なった順応状態にある個体について、環境温度とエネルギー代謝およびその他の自律的反応の関係を調べ、順応温度の効果を明らかにするとともに、視床下部体温調節機構および末端部反射機構における適応機序を分析する。これらの結果を、下等なサル類から高等な種にわたって比較検討する。

### 4. 主としてニホンザルを対象とした行動の研究

この課題は、所内で歴史的伝統や実際の仕事の場合は異なるがともに個体を中心とした行動とその分析の基本的方法に関心をもち研究者が共同で対応するもので、現在とくに問題になっているのは行動の分類、観察と分析の際の客観化、用語・概念の検討等方法に関するものであり、一応テーマとしてコミュニケーション、行動面から

みた発達、個性性、個体の行動を通じての社会構造等が考えられている。なお、この課題は研究会課題「行動観察の基本的な方法と客観化の問題」と密接な関係をもって遂行される予定である。

### 5. 行動の発現機序に関する神経生理学的研究

霊長類にみられる行動—単純な随意運動から学習の行動、社会的行動に至るまで—には、すべて神経系内にその発現機構が備わっている。神経生理学の技術と方法論で行動の発現機構の機序を調べる。サルの種類、麻酔の条件、取り上げる行動等は最も適切なものを選ばれたい。

### 6. 霊長類の生殖に関する基礎的研究

霊長類の性行動を含んだ生殖活動の基礎的研究を行なう。例えば、基礎体温の二相性機序と性ホルモンの関係、性腺刺激ホルモン放出因子その他の合成薬物による排卵誘発、性分化とテストステロン等の生理学的側面を解明する。また、性的成熟、性周期、性交期と出産期、性行動、社会的性関係、流死産等の諸問題を形態学、行動学、生態学、社会学的側面からアプローチし、霊長類の生殖に関する総合的研究をめざしたい。これらの諸問題は、種間の比較研究を通じて系統的に進められなければならないが、当面は主としてマカカ属に重点をおく。

研究課題に関する申請状況、採択状況、ならびに採択された研究に対して予定された経費は次のとおりである。

#### A. 設定課題

##### 1. ニホンザル地域個体群の研究

申請13件（13名） 採択12件（12名）

旅費111.2万円・研究費43.2万円

##### 2. 生活様式ならびに身性特徴との関連における霊長類のロコモーションに関する研究

申請3件（3名） 採択3件（3名）

旅費10.5万円・研究費17.0万円

##### 3. 霊長類の生理的適応

申請3件（9名） 採択3件（9名）

旅費4.6万円・研究費11.3万円

##### 4. 主としてニホンザルを対象とした行動の研究

申請6件（6名） 採択3件（3名）

旅費27.4万円・研究費8.0万円

##### 5. 行動の発現機序に関する神経生理学的研究

申請8件（10名） 採択6件（8名）

旅費37.1万円・研究費37.3万円

##### 6. 霊長類の生殖に関する基礎的研究

申請4件(4名) 採択3件(3名)  
旅費2.8万円・研究費21.0万円

## B. 自由課題

申請27件(27名) 採択19件(19名)  
旅費73.6万円・研究費67.6万円

研究会課題に関しては、公募に際し特に設定主題は提示されなかった。公募後、諸状況を所内で勘案の上、運営委員会の議を経て3主題を決定した。それら主題を予定された経費とともに列記すれば次のとおりである。

1. ニホンザルの現況 旅費15.5万円
2. 行動の観察方法と記述の客観化 旅費20.5万円
3. ホミニゼーション 旅費18.0万円

## 付 記

### (1) 霊長類研究者連絡会の発足

本研究運営委員選出の母体として、昭和46年6月に霊長類研究連絡会が組織されたが、会則もなく、運営機構も不備であって、その機能を効果的に發揮するに至らなかった。そこで近藤所長は昭和47年11月20日の運営委員会に、この組織の名称を実体にふさわしく「霊長類研究者連絡会」と改め、機構を整えることを諮り、その意見に基いて、まず所内から選ばれた世話役(大沢済・河合雅雄・川村俊蔵・久保田鏡)に設立準備委員会の構成を委嘱した。設立準備委員には、霊長類研究連絡会員が互選の結果、糸魚川直祐、岩本光雄、江原昭善、大沢済、河合雅雄、川村俊蔵、久保田鏡、近藤四郎、田中利男、水原洋城(五十音順)の10氏が選ばれ、会規約の原案を作成、昭和48年3月17日プリマテス研究会にひきつづいて開催された設立総会にその承認を求めた。設立準備委員会は総会では出された意見にもとづいてさらに原案に検討を加え、3月20日つぎの通り会規約が決定された。

3月31日現在会員数は140名である。

## 霊長類研究者連絡会規約

昭和48年3月20日作成

1. 本会は京都大学霊長類研究所(以下「霊長類研究所」という)の共同利用研究所としての活動性を高めるとともに、会員相互の連携を緊密にすることを目的とする。
  2. 本会は霊長類を主たる研究対象とする研究者(大学・研究機関の研究者、大学院学生およびこれに相当する研究者)をもって構成する。
  3. 本会の会員はつぎの権利と特典をもつ。  
A 霊長類研究所運営委員を推挙する。  
B 霊長類研究所年報の配布を受ける。  
C 研究にかんする必要な情報の提供を受ける。
  4. 本会の事務局は霊長類研究所におき、所長が会の代表としてこれを主宰する。
  5. A 本会に入会するには、所定の用紙に必要事項を記入して事務局に提出し、会員としての登録確認を受ける必要がある。  
B 事務局は2年ごとに会員にたいして、登録を継続する意志の有無を問い、名簿を更新する。
- (2) 共同研究実行委員会

共同利用研究に関する運営委員会審議に要する参考資料のとりまとめ、ならびに共同研究の実行の円滑化をはかるために、所内に共同研究実行委員会が設けられた。昭和47年度委員会は、すでに前年度12月に発足(委員長：岩本光雄)したが、これと一部期を重ねる形で、昭和48年度委員会が47年11月に発足(委員長：久保田鏡)した。

(岩本光雄)

## 2. 研 究 成 果

### 設定課題 1. ニホンザル地域個体群の研究

#### ニホンザルの個体群動態

増井 憲一(京大・理)

47年度は、昨年に引き続き高崎山と白山でポピュレーション・センサス等の調査をおこなった。また、ニホンザルの寿命についての検討を一部試みた。

高崎山のセンサスは、1972年8月25日から9月22日まで34日間のあいだにおこなわれた。行列観察は、A・B・C3群について、それぞれ10回、11回、8回おこなうことができた。また、サンプル個体として、とくに1オのメスを中心に、新たにA群21頭、B群10頭、C群12頭の計43頭に入れずみをほどこした。センサス結果は第1

第1表 行列観察の記録

回数	A群	B群	C群
1	902	222	230
2	926	234	247
3	891	215	235
4	922	240	250
5	965	240*	215
6	932	245	239
7	913	226	246
8	792+α	236	247
9	909	260	
10	918	284	
11		239	

\* 225+15 males